

第 1 回伊賀市総合計画審議会 議事概要

開催日時	2023（令和 5）年 6 月 29 日（木）13：30～16：00
開催場所	伊賀市役所 4 階 庁議室
出席委員	<p>岩崎 恭彦（【1号委員】三重大学人文学部） オチャンテ 村井 ロサ メルセデス （【1号委員】桃山学院教育大学人間教育学部） 片桐 新之介（【1号委員】合同会社 C.SSS コーポレーション） 西口 真由（【2号委員】公募委員） 大北 薫（【3号委員】伊賀市消防団） 奥西 利江（【3号委員】社会福祉法人維雅幸育会） 澤野 政子（【3号委員】男女共同参画ネットワーク会議） 船見 くみ子（【3号委員】公益財団法人伊賀市文化都市協会） 増田 政俊（【3号委員】伊賀市地域公共交通活性化再生協議会） 加納 圭子（【4号委員】 — ）</p>
欠席委員	<p>朴 恵淑（【1号委員】三重県地球温暖化防止活動推進センター） 町野 真由美（【2号委員】公募委員）</p>
議事日程	<p>1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）評価の実施手法について （2）外部評価の実施について ① 健康・福祉分野 ② 生活・環境分野 ③ 産業・交流分野 ④ 生活基盤分野 ⑤ 教育・人権分野 ⑥ 文化・地域づくり分野 ⑦ 計画の推進分野 総括 （3）外部評価のまとめ及び報告書（案）作成、答申について 4 その他 （1）【第2回伊賀市総合計画審議会】について</p>
議事概要	<p><u>1 開会</u> （事務局）ただいまから、第1回伊賀市総合計画審議会を始めさせていただきます。</p> <p>★会議及び議事録公開の確認</p>

(事務局)

本日の会議は運営規程により、会議を公開し、会議の傍聴を認めている。本日の会議を傍聴される方、報道関係者の撮影等について、ご了解、ご理解をお願いする。

また、会議録についても公開させていただく。

事務局に4月以降変更があったため、紹介。

★資料の確認

配付資料の確認。

- ・ 事項書
- ・ 伊賀市総合計画審議会委員名簿
- ・ 資料1 審議会条例・伊賀市総合計画審議会運営規程
- ・ 資料2 評価の実施手法について
- ・ 資料3 R5年度第1回審議会に向けての事前質問に対する各施策部局からの回答
- ・ 参考資料1-1 横断的な取り組み状況(施策評価シート案)

★会議成立の確認

(事務局)

「伊賀市総合計画審議会条例」第6条第2項に基づき、委員の半数以上の出席あるため、会議成立の確認。「当審議会条例」第6条第1項により、会長が議長となるとあるので、以下の進行について、会長をお願いする。

2 あいさつ

(会長) — あいさつ —

3 議事(1) 評価の実施手法について

(事務局) — 説明 —

(2) 外部評価の実施について

(事務局) — 説明 —

<会長>：評価の視点について、確認をするが、A「成果指標進展度」で特に進展度が低い施策、×や△に注視したうえで、C①「まちづくりアンケート調査結果(令和4年度)」、C②「まちづくりアンケート調査結果(令和4年度各分野別)」を参考に、B「事務事業の課題・事業の進捗」で担当課の分析がしっかりできていれば「適正」とみなし、問題がある施策については、「適正ではない、見直しが必要」と判断し、審議会として「どう見直すべきか」等の意見を附すような流れで進めていくので、よろしく願いたい。

進め方は、7つの分野別に進めていくが、時間の目安としては、1分野、15分を目途に、事務局からの説明5分、評価意見の記入・意見の披露合わせて10分という流れで進めていくので、ご協力をお願いしたい。

それでは、「1. 健康・福祉」分野から始めていく。

はじめに、事前にいただいた委員の皆さんの質問を含め、事務局から簡単に説明をお願いしたい。

(事務局)：— 「1. 健康・福祉」分野の説明 —

<委員>：— 「1. 健康・福祉」分野の意見記入・意見発表 —

<委員>：施策1-2「医療」の基本事業「在宅医療」のKPI「多職種間連携の意識」の評価について、具体的にどんな連携をしているのか。

他の地域でも課題になっているが、具体的にどういう連携をしたらいいか悩んでいる自治体も多い。なので検証から入った方がいいのではないかという意見。そもそも連携手法としてどうなのかという見直しをした方がいいのではないか。それがアンケート結果に出てしまったのではないかと思ったので指摘させていただいた。

<会長>：(同じ箇所の補足で) 課題の表記で「引き続き多職種間連携の強化が必要である。」とある。今、目標が達成できていない状況に対してこの表現は、課題の抽出が甘いのではないかと思う。何をやっているのか、その何が足りないのかということが施策評価シートから見えてくるような課題の抽出が必要ではないかと思う。

<委員>：施策1-4「高齢者支援」の基本事業「地域自立生活支援」のKPI「緊急通報システム貸出数」の「課題」について、昨年度の評価意見として「(緊急通報システム貸出)申請時に支援者登録が複数人必要」について、一人暮らしの高齢者への対応は重要な課題であり、解決の方向性を示すべきではないか。」とあった。今年度は「利用対象者は原則一人世帯若しくは同居者が障がい等により緊急時の対応ができない世帯となっている。」と更に課題が膨らんでいる。しかし施策評価シートの改善案では、余りそれに触れられていないので、そこをもう少し詳しく記入いただきたい。

<委員>：施策1-5「障がい者支援」の基本事業「障がい者支援」のKPI「地域生活支援拠点事業 登録事業所数」について、登録する施設が増えても、それを実際利用される方に周知し、利用いただくということがなければ、数が増えてもあまり意味が無い。市から登録のお願いをされるので登録はするが、どこの事業所も登録しているだけで利用者がいない現状だと思う。本当は利用したい人はいると思うが、その部分を今後の成果指標として取り上げていく必要があるのではないかと思う。

<会長>：(同じ箇所の補足で) 指標のアウトプットになっていなくてインプットにな

っているという問題。指標の見直しは計画の改訂ということになってしま
うので直ちには難しいと思うが、サブ指標を設定するというような工夫も
あったと思うし、また今後の計画体系の見直しの際の視点としては重要な
ご指摘だと思う。

<委員>：施策1-2「医療」の基本事業「上野総合市民病院」の「課題」について、
「社会では脱コロナ化が進むが、病院では面会制限等を緩めつつ、院内感
染の防止を継続する必要がある。」とある。自分が関わりある外国人で、若
い人はタブレット等を使って家族の方と直接会話できるが、高齢の外国人
はそれらの機器を使えないので、家族との連絡が全く取れない状態の方が
いる。機器が使えない高齢の外国人も何か ICT を使って直接家族と連絡が
取れる支援がないかと思う。

<会長>：(同じ箇所の補足で) 進展度が◎であっても、現状に満足せず、新しい技術
等を取り入れて更に向上させてほしいという意見。

<委員>：施策1-6「子育て・少子化対策」の基本事業「少子化対策」のKPI「特定
不妊治療助成申請件数」の「課題」について、事業進捗が「計画通り進め
ている」に対して、課題が「コロナ禍のなかイベント定員を縮小したこと
で、多くの方が抽選に漏れた。ニーズに対して受け皿の確保が困難である。」
に留まっている。もう少し課題の深掘りが必要ではないか。

(事務局)：— 「2. 生活・環境」分野の説明 —

<委員>：— 「2. 生活・環境」分野の意見記入・意見発表 —

<委員>：施策2-1「危機管理」の基本事業「地域防災力・減災力」のKPI「地域の
避難所運営マニュアル策定率」の「課題」について、「地域の理解を深める
ために時間的な要素が課題である。」について、時間がかかるのは分かるが、
それでは時間がかからないようにするためにはどうすればいいのかを明確
に記載する方がよいのではないか。

<会長>：(同じ箇所の補足で) 課題を踏まえてどう改善するかが、「課題」欄か「改
善案」欄かで見えればよいということ。今の記載ではどちらも読み取れな
いという意見。

<委員>：施策2-4「環境保全」の基本事業「生活環境保全のための監視・調査」
のKPI「河川水質環境基準達成度」の「課題」について、「生活排水対策が
進まず、久米川のBODが環境基準(県調査)を超過している状況が続いて
いる。」とあるが、これはずっと続いていて放置されているのか、或いは検
査をする手立てがないのか、それも課題なのかを記載する方が進展する
と思う。この記載では今すぐにでも調査をすれば解決する問題ではないか
と思う。その辺りを事前質問したが、疑問が解消されなかった。

<委員>：施策2-5「一般廃棄物」の基本事業「ごみの資源化」について、言語別

ごみ分別アプリの導入・活用は非常にありがたい。しかし、実際のごみ収集日の集積場では、自治会で苦慮している現状もある。地元での努力がごみの削減や資源化にどの程度つながっているか。そういう目線で、生活につなげて、このシートを見たいのだが。

<会長>：(同じ箇所の補足で) 満足度、参画度を踏まえた評価というのは、そういう所に狙いがあって、行政だけが事業として進んでいけばいい訳ではなく、市民の方からどれだけご協力いただけているかということも合わせて評価するというはず。ただ、そういう所が中々見えてきにくいというのが課題の抽出のあり方や評価の仕方にあるのかなと思う。満足度、参画度を合わせた評価が出来るように進めていただきたい。

<委員>：施策2-5「一般廃棄物」の基本事業「ごみの資源化」のKPI「ごみ分別アプリ登録数」について、外国語版ごみ分別アプリが完成されたが、それを実際外国人が活用するまでは浸透していないように思う。せっかく完成したアプリをどうやって普及させていくのかが必要だと思う。

<会長>：(同じ箇所の補足で) 課題の指摘に留まっていて、どうその課題を乗り越えていくかについてもちゃんと評価してほしいという意見。

<委員>： 施策2-1「危機管理」の基本事業「河川維持・改修」のKPI「河川浚渫事業対応率」について、目標値は80%、進展度は◎となっているが、これは何に対しての80%なのか。実際は河川の土砂の堆積物がひどく、一部取ってはもらっているもまた元に戻ってしまう現状で生活実感と評価が必ずしも連動していないと感じる。対応方法を具体的にどう取組んでいただくのか。

施策2-4「環境保全」の基本事業「生活環境保全のための監視・調査」のKPI「河川水質環境基準達成度」で達成度が100%となっているが、工場ができて河川が汚れるようになったと感じることがある。生活排水のみでなく工場から出る汚水処理対処にはどのように取組むか具体的に知らせてほしい。

<委員>：施策2-2「消防・救急」の基本事業「火災予防」のKPI「住宅用火災警報器設置率」について、目標値が80%だが、既に達成しているので、もう少し高い目標値の設定100%も可能ではないか。火災警報器は設置されてから10年以上経過しているので啓発も必要だと思う。

(事務局)：— 「3. 産業・交流」分野の説明 —

<委員>：— 「3. 産業・交流」分野の意見記入・意見発表 —

<委員>： 施策3-6「就業・起業」の基本事業「創業支援」のKPI「起業数」について、補助金に頼らず起業した件数も、起業数にカウントしていった方がいいのではないか。

施策3-6「就業・起業」の基本事業「就労支援、職業相談」のKPI「有効求人倍率」について、昨年度の評価意見に対して、サブ指標「内定者率」を上げていただいたので、よく分かるようになり非常に良くなった。

<委員>：施策3-6「就業・起業」の基本事業「就労支援、職業相談」の「課題」について、課題で「企業の労働環境整備の取り組みについて同じ課題を抱えた他企業との問題意識の共有やディスカッションができる場の提供が必要である。」とあるが、具体的にどういう所でディスカッションするのか。例えば障がい者の雇用率は2024年は2.5%、2026年には2.7%と上がっていく状況の中、どこの企業も未達成である。法人と企業とが上手くディスカッションしていきながら出来るような仕組みがほしいと思う。

また、女性の就労支援で社会保険の加入条件が段階的に変わってきている。来年の10月から20時間以上勤務している方の社会保険加入の件で、多くの方が20時間未満で働きたいと言う状況。そうなってきた時の人手不足の問題、ワークシェアリングが上手くできればいいが、そういう視点で上手くディスカッションできる場を提供いただけたらと思う。

<会長>：(同じ箇所の補足で)的確な意見。これを具体的にどのような事業に結び付けていくのかを担当課にお願いしていただければと思う。

<委員>：施策3-4「中心市街地活性化」の基本事業「市街地整備」のKPI「中心市街地の人口社会増」について、中心市街地の人口社会増について、様々な事業に関連した目標値とのことだが、課題の検証も含め今後の経年変化に期待したい。

<委員>：施策3-2「農業」の基本事業「地産地消」のKPI「伊賀スマイル給食実施回数」について、課題では総量の確保が困難な部分もあり、メニューが限定的になってしまう傾向があるとある。その課題検証する中で、仕入先を広げるよう広く連携を取って検討しているかどうか見えると良いと思う。

(事務局)：— 「4. 生活基盤」分野の説明 —

<委員>：— 「4. 生活基盤」分野の意見記入・意見発表 —

<委員>：施策4-4「公共交通」について、満足度が低い。公共交通の推進に関わる市民がどうなのかという所だと思う。例えば関西本線の、国の方から支援策がくる中で体制を整えていく時に、市民も参画するのかどうかということ質問で聞いたかったが答えとして無かった。そういった市民の巻き込み方についてもアンケートを十分に意識した中で、課題の中で少し触れてもらえればいいのではないかと思う。

(事務局)：関西本線の支援体制については、行政の支援組織は去年出来た。市民をどう巻き込んでいくかは、今からである。協議会の地域部会があるのでそこで意見を聞かせていただく。

<委員>：そこを記入いただくことで、皆さんに伝わっていくので触れてもらえればと思う。

<委員>：施策4-1「都市政策」の基本事業「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」のKPI「誘導区域内への誘導率について、課題で「年度毎の誘導率の差が大きくなる。」とあるが、分かりづらい。そもそも誘導率を上げるための課題が何なのか。実際踏まえてどう対応するのかという所を課題として挙げていただきたい。

<会長>：(同じ箇所の補足で)行政としてコントロールしにくいということだろうが、実際踏まえてどう対応するのかという所を課題としてあげてほしいという意見。

<会長>：施策4-4「公共交通」について、進展度が△に対して、計画通り進めているという事業の進捗は、市民目線からいくと中々納得していただきにくいと思う。満足度・参画度も低いという所も合わせた時に、行政の事業として着々と実施していただいている、計画通り進めているということにはなると思うが、ただ、ここで求めている自己評価はそうではなく、KPIが達成できているかどうか、市民の皆さんを巻き込んでいるかどうかという視点からの評価のはずで、評価の視点が担当課の共有が未だ徹底されていないことで、進展度に対しての自己評価が対応していないような形になっているのではという気がしている。ここは総括の所で発言すべき意見なのかもしれないが、この評価がどういう視点からの評価であり外部評価なのかを改めて、内部で徹底を図っていただく必要があるのかなという気がする。

<委員>：施策4-4「公共交通」について、60~69歳の市民満足度が低い現状で、高齢者にとって免許返納後の交通手段がとても不安である。老後の交通手段の必要性を感じるが市民は「不便だから乗らない。」ということが定着し満足度も低くなっていると思う。日頃から利便性を感じられるような(病院に行くのが便利など)利用しやすく便利な具体的交通手段を考える必要があるのではないか。

<委員>：例えば、市役所に来るという事だけでも、もう少し便利に出来るようなネットワークというのがやはり一番大事。例えば、電車に乗る時に自転車を積んで最寄駅から来るような、そういうネットワークが自分の家から駅まで、つながるかどうか。やはり代表的な施設である市役所や病院など上手につなげられたらと思う。

(事務局)：— 「5. 教育・人権」分野の説明 —

<委員>：— 「5. 教育・人権」分野の意見記入・意見発表 —

<委員>：施策5-3「学校教育」の基本事業「学校マニフェスト」について、実績値が微増しており、コロナ禍でもあまり変化がなかったのはすごいこと。そ

のような学校の取り組みの努力がある中で、課題にある家庭学習の時間が短いこと、ゲーム・スマホの時間が長いことが、いごっ子の特色。家庭の協力を得るためにどうするかを一緒に考えさせてもらおうと思う。

<委員>：施策5-3「学校教育」の基本事業「学校マニフェスト」について、先生方が熱心に学校マニフェストに取り組んでいただいていることは実感するし、効果も出ていると思う。これは単なる意見だが、児童生徒の支援で、安全に通学するという点について、不審者の問題、安全な通行の問題（田舎道で歩行者道路が無くトラックが走る道路と同じ道路を通学する）が上がっている。評価委員として色々見聞きする中での意見の一つとして。地域の旗振りのボランティアが高齢化しているので、先生方が対応しており、教員の業務軽減にも関わらず、そういう所に時間を取られている。

<委員>：施策5-5「生涯学習」の基本事業「図書館活動」のKPI「図書館年間入館者数」について、目標値35万2千人に対して、現状実績値が6万人で乖離しすぎており指標として適切か。新図書館が出来る前提での記載となっていると思われるが、担当課だけしか分からない内容になってしまっているのではないか。

<会長>：（同じ箇所の補足で）今後、検討する必要がある。どこかに指標の取り方が変わったから数値は落ちているように見えるが実際には落ちていない。読めばわかるが進展度で○や×がつくと、出てくる違和感があるので、そこを埋める何かをご検討いただく必要がある。

<委員>：施策5-1「人権尊重・非核平和」の基本事業「男女共同参画」の「課題」について、「男は仕事、女は家庭・育児・介護」という考え方に賛成する市民が多い現状の「賛成する市民が多い」という表現は適切ではないので修正いただきたい。古い固定的考え方がまだ残っている現状があるのではないか。

<委員>：施策5-3「学校教育」の基本事業「学校マニフェスト」について、学校マニフェストに是非防災教育を入れていただきたい。津波の多い地域は学校の授業をボランティアが持たしてもらい、年間通して行っている。おそらく伊賀市は災害のあった時期はされていても年間通しては中々ないと思うので、これから大きな災害が起こると言われている中で、子どもたちにそういう授業をしていくべきだと思う。色々な専門機関も連携して進めてもらったら良いと思う。

（事務局）：— 「6. 文化・地域づくり」分野の説明 —

<委員>：— 「6. 文化・地域づくり」分野の意見記入・意見発表 —

<委員>：施策6-1「住民自治・市民活動」の基本事業「市民活動」のKPI「市民活動支援センター利用件数」について、課題の所で「また、市民活動が活発

に行われることで、N-1グランプリの参加団体の拡大にもつながる。」という記載ではN-1グランプリに参加する事が目的になっている。N-1グランプリがまちづくりのきっかけになるということが主旨だと思うので、少し修正いただきたい。

<委員>：施策6-4「歴史・文化遺産」の基本事業「文化財の活用」のKPI「文化財施設入館者数」について、文化財施設の入館者だけでなく、入館者の満足度を指標にしていくべきではないか。入館者数自体の指標よりも来館した人の満足度をしっかり見た方がいいのではないか。数だけの話ではないし、高齢化や少子化が進めば、どうしても減らざるを得ない。そういう所の視点も大切にしてほしいと思う。

<会長>：(同じ箇所の補足で)この内容は総括の所でも記載を残していただければと。会議の開催回数や施設の入館者数などが指標として多いイメージだが、それが果たして適切な指標なのかどうか、所々でご指摘いただいている所だと思う。

<委員>：施策6-3「文化・芸術」の基本事業「芭蕉翁顕彰」のKPI「芭蕉祭献詠俳句等応募数」について、課題としてどうやって俳句等応募数を増やすか。現在市が取組んでいる俳句教室・子ども俳句教室などの俳句に親しむ取組み、市民の向上を目指すための教室を充実させる必要があるのではないか。課題として取組んでいる現状を挙げて俳句人口を増やす取組みの必要性を感じる。

<委員>：施策6-4「歴史・文化遺産」の基本事業「歴史資料の整理・保存・管理」のKPI「歴史資料閲覧件数」について、課題が「所蔵している資料を広く活用する必要がある。」と大まかに書かれており、何が課題なのか見えない。表に出していない事が問題なのか、知られていないのが問題なのか。この施策と合わせて、他事業の文化財保護、文化財の活用、歴史まちづくりについても同様なので課題の深掘りが必要と思う。

<会長>：(同じ箇所の補足で)施策6-4全体がそのような感じ。ご指摘いただいたので見直していただけたらと思う。

<委員>：施策6-6「定住・関係人口」の基本事業「地域人材育成」について、若者会議の活動に関する認識が広がっているとあるが、これは行政からの目線で見るとそうであって、市民目線からはそうだと感じないので、計画通り進めているという評価は甘く捉えられているのではと思う。そこに対する課題もそれで本当にいいのかと思う。

<委員>：施策6-5「スポーツ」の基本事業「スポーツ振興」について、スポーツ振興に関して、施策5-3「学校教育」の学校部活動の地域移行が進められつつある中、受け皿として横の連携を期待する。

(事務局)：— 「7. 計画の推進」分野の説明 —

<委員>：— 「7. 計画の推進」分野の意見記入・意見発表 —

<委員>： 施策7-3「組織・人事」の基本事業「行政組織（機構）の見直し」の KPI 「有効改善提案の割合」について、課題で「部長等によるマネジメントの実効性の強化、人的資源の適正配分など大局的視点での提案が見られない。」とあるが、大局的な視点に立つという課題は、マネジメント層がやるべき課題ではないか。「より細かい業務改善をボトムアップで色々出せる工夫」と「マネジメント層がボトムアップの提案をいかにして組織改善に活かしていくのか」といった2つの視点で考えていただきたい。

施策7-5「デジタル自治」について、あるべき姿を作ってそこへのロードマップ作りが大切だと思うので、ロードマップに対して、どれだけ近づいているのか課題を抽出できているのかという視点を持っていただいた指標づくりとか課題の検証をしてほしいと思う。

あと、全体として、指標の設定について、会議の開催回数や施設の入館者数などが指標として多いイメージだが、それが果たして適切な指標なのかどうか。議論の余地はかなりあると思っている。入館者数とか数だけとか、特に図書館の入館者数で民間委託業者が不正したという事があったが、そういった所だけではない視点は是非持っていただきたいと思う。

<会長>： 施策7-3「組織・人事」の基本事業「職場環境の整備」の KPI 「ストレスチェックの受検職員割合」について、コロナ禍により、ストレスの溜まりやすい状況が続くなかで職員のストレス状態の把握や、それに基づく早期の適切な対応などを現下の状況を踏まえて徹底して行っていただきたい。

<委員>：— 「総括」の意見記入・意見発表 —

<会長>： KPIについての考え方を少し内部で徹底していただくといいのではないかと。目標値が100%というのは重要な事だと思うが、本来 KPI は理想的な姿を目指すのではなく、5年後確実にここまでは出来ていないといけないというものなので、その齟齬が無いかどうかという所だと思う。全体として KPI の考え方を内部で共有できているか、私たちも含めて評価として共有できているかという問題があるかと思う。またご確認いただければと思う。

(3) 外部評価のまとめ及び報告書（案）作成、答申について

(事務局) — 説明 —

(事務局)： 記入いただいた外部評価シートは今日、提出をお願いしたい。もし時間内に書ききれず、後日ということであれば、7月3日（月）午前中までをお願いしたい。

<会長>： 委員の皆さんに評価いただいた意見は、事務局で集約していただく。その後取りまとめた報告書（案）を事務局から共有させていただき、皆さんに確認いただき、ご意見をもらう形で進めさせていただきたいのでご了承をお願いしたい。

本日の会議全体を通して委員の皆様から何かご意見ご質問等はございませんか。本日は大変な作業を長時間に亘ってしていただき誠にありがとうございました。あとは事務局に進行をお返しする。

（事務局）： 次回、2回目の会議は7月19日（水）午前10時から開催させていただくのでよろしくをお願いしたい。これもちましてこの審議会を終了させていただく。どうもありがとうございました。